

# これがオススメ! 読み聞かせ本

全学年向き

学習指導要領で読み聞かせがすすめられて、読み聞かせについてのたくさんの本が出版されています。また、ブックリストもたくさん出ていますが、さて実際に子どもたちに読もうと思うと、どの本がいいのか、どうやって読んであげたらいいのか、困ってしまいます。「これなら楽しく読み聞かせができるよ」という本と読み方を紹介しましょう。

東京オリンピックの閉会式で、多様性と伝統を表現するために、アイヌ古式舞踊や琉球工イサーなど、各地の伝統的な踊りの映像が世界に発信されました。子どもたちが、自分と違う文化や立場を知りたいと思う時、本の力が必要です。そこで今回は、ヒグマとアイヌの少年の友情の物語、『クマと少年』を紹介したいと思います。

作者のあべ弘士さんは、北海道旭川市の出身で、アイヌの人々が暮らすコタン(村)がある環境で少年時代を過ごしました。自然や野生動物が好きで、旭山動物園の飼育係を25年勤め、絵本作家として多くの動物を描き、活躍しています。

昔のアイヌの人々は、狩猟を重んじました。ヒグマを最も位の高い神として敬い、「イオマンテ」という儀式で、大切に育て



## クマと少年

あべ弘士・著  
(ブロンズ新社)

た子グマ(神)の魂を神の国へ送り帰り、神の恵みが人間の世界にまた来るようにと願いました。

物語では、村に連れ帰ったヒグマの子どもが、少年のお母さんのおっぱいを一緒に飲むシーンがあります。お話を聞いていた子どもたちは驚き、笑いだします。でもこれは、嘘ではありません。

あべさんは、アイヌの人々から話を聞き取り、科学絵本と物語を一つにしました。アイヌの人々の暮らしや文化をわかりやすく描くの5年の歳月を費やしました。

兄弟のように育ったグマがいなくなり、少年と再会する場面の絵の迫力は素晴らしく、クマの「だいきなきなにいさんの矢で、神の国におくりかえしてほしい」と願う言葉に感動します。アイヌの人々の誇りと命の重みを感じる一冊です。